

Aグループ

討議
の
概要

Aグループでは、子どもから高齢者までを含むコミュニティづくりが重要であり、そのための場も必要であるとして、「居場所・場所づくり」という柱を設けました。その議論の中では、特に、子育てしやすい環境づくりについての重要性が共有されました。また、既存施設の効率的な利活用についての意見も出ました。

2つ目の柱として、人が少なければ何もできないし賑わいも生まれないということで、「人口増加」という柱を追加しました。住宅、移住・定住、観光などの交流人口、住み良い生活環境、産業など様々な要素が挙げられ、様々な分野にまたがった総合的な取組が必要であるということを確認しました。

高齢者から若者までの幅広い層・立場の多様な観点や考えが挙げられ、それぞれが重要と考えるまちづくりの方向性を共有しました。

尾鷲市民憲章

A

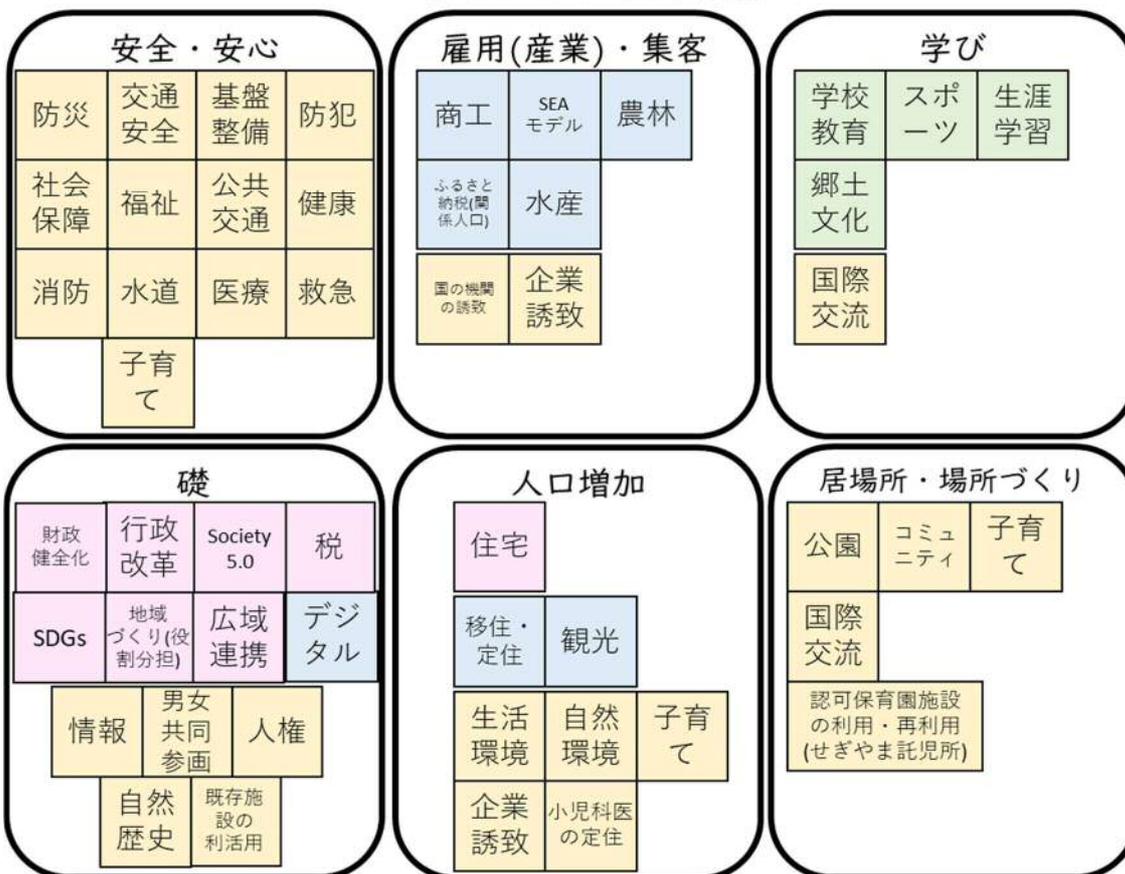
グループ

- 郷土を愛し、清潔でみどり豊かなまちをつくりましょう。
- 人と人とのつながりを大切にし、思いやりのある住みよいまちをつくりましょう。
- 未来を担う子らを健やかに育て、夢と希望あふれるまちをつくりましょう。
- 伝統を生かし、文化の香り高いまちをつくりましょう。
- 産業を育て、活気あふれるまちをつくりましょう。

まちの将来像

住みたい・住み続けたい ふるさとおわせの再生

まちづくりの基本目標



Bグループ

討議
の
概要

Bグループでは、「安全・安心」の内容を主にインフラ等のハード面に係る「安全」と主にソフト面に係る「安心」に区分しました。国際交流や男女共同参画は「安全・安心」というよりは「学び」ではないかとの意見があり、自然共生も含めて移動させました。

当初は「雇用（産業）・集客」であった項目については、産業に係るグループと、今後更に力を入れていくべきと思われることとしての、観光・集客及び市のPRなどの、市外との交流に係るグループに分け、「PR・集客」とし、尾鷲の誇るべき資源としての新しい項目としての「食」を追加しました。

これらの分類により6つの基本目標としましたが、安心・安全や自然環境に関することなどは、様々な分野の事に関わるといった横の繋がり視点も見られました。

尾鷲市民憲章

B

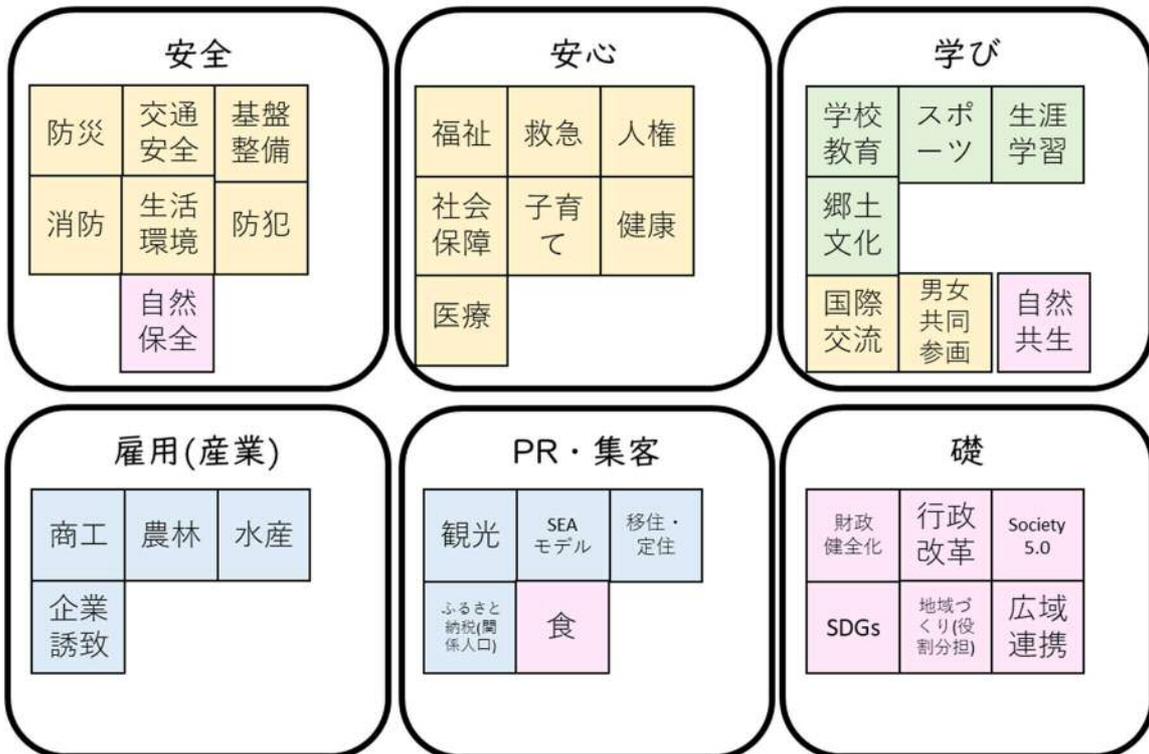
グループ

- 郷土を愛し、清潔でみどり豊かなまちをつくりましょう。
- 人と人のつながりを大切に、思いやりのある住みよいまちをつくりましょう。
- 未来を担う子らを健やかに育て、夢と希望あふれるまちをつくりましょう。
- 伝統を生かし、文化の香り高いまちをつくりましょう。
- 産業を育て、活気あふれるまちをつくりましょう。

まちの将来像

住みたい・住み続けたい ふるさとおわせの再生

まちづくりの基本目標



Cグループ

討議
の
概要

Cグループでは、まちの賑わいに関する意見やアイデアが多く挙げられ、豊かな自然が有する景観などを誘客に活用していくことや、スポーツを使った賑わい創出が挙げられました。特にスポーツについては、以前はマラソン等のイベントによりまちが賑わっていたとのこともあり、高齢化により健康の重要性が上昇している事も合わせ、今後10年間で取り組むべき目標の柱の一つにあげられました。

また、人口増加への意見も多く挙げられ、若者が住みたい・住み続けたいと思うまちにするためには、子どもたちの楽しく遊べる場所の創出や、雇用の確保、また、移住する際の安価な住居の確保に関する情報提供が必要ではないか、との意見がありました。

基本目標の安全・安心の項目については、国際交流や交通安全などが学びに移動したほか、同じ安全・安心の中に、福祉や医療のようなものと、インフラのような都市整備的なものが一緒に良いのか、との意見もありました。

尾鷲市民憲章

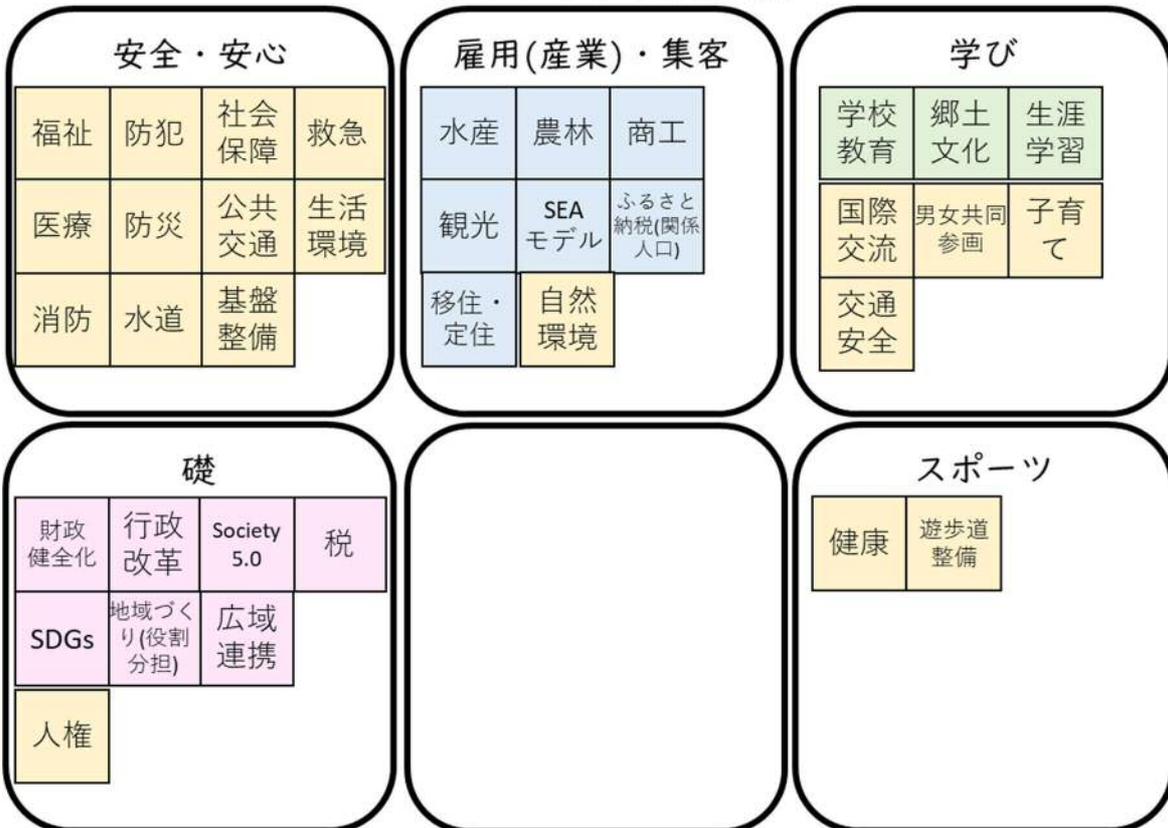


- ー 郷土を愛し、清潔でみどり豊かなまちをつくりましょう。
- ー 人と人とのつながりを大切にし、思いやりのある住みよいまちをつくりましょう。
- ー 未来を担う子らを健やかに育て、夢と希望あふれるまちをつくりましょう。
- ー 伝統を生かし、文化の香り高いまちをつくりましょう。
- ー 産業を育て、活気あふれるまちをつくりましょう。

まちの将来像

住みたい・住み続けたい ふるさとおわせの再生

まちづくりの基本目標



【岩崎会長による、ワーキングに対する総評】

発表ありがとうございました。3グループ、非常に分かりにくいテーマをそれなりにまとめていただきまして、どうもありがとうございました。大いに参考になると思います、市役所にとっては。なんでかという、先ほどちょっと言いかけていましたけど、最初のこの付箋の割り振りというのは、市役所の各課が自分のところの仕事について書いているんです。だから、自分のところの仕事だけですから、横の人の関係であるとか、市民との視点で仕事を作っていくことが決定的に欠けています。それを今日は皆さん方が、指摘されたことだと思います。何かという、Aグループで言うと、しばしば小倉さん中心に話が出ていましたけど、やはり居場所づくりであるとか、それから連携という話がありました。居場所、市民あるいは子どものために、教育のために、あるいは子育てのために何らかの形で、あるいは高齢者と子どもと3世代交流のための、そんな居場所というのは色んな種類がありますが、その居場所というのは実は市役所の子育て課だけの話ではない、老人福祉課だけの話ではない。そう言うみんなが寄ってたかって、色んな居場所を作らなくちゃいけないということについては、残念ながら各課が縦割りでやっていると中々出てこないのです。それぞれが居場所というものが欲しいと思うのですが、それは子育ての居場所であったり、生涯学習の居場所であったり、それぞれの各課の設置目的があり、それではない、色んな人がわいわいと寄り寄りようなコミュニティを作っていくということは、中々今のこの枠内では収まりきらない。それがここでは指摘されたんだ、というふうに思っています。それからBグループもCグループも出ていたのが自然と共生というものです。自然との共生、自然を活かしていくということも、これも残念ながら今の市役所の中で、「じゃあ自然を活かすぞ」「活用するぞ」ということを専門にしているセクションというのは残念ながらあまり無いのです。色んな課がちょっとずつ、例えば文化財から自然を大切にしたい、あるいは漁業とか木のまち、あるいは海のまちとして自然を大切にしたい・共生していく。けれどもそもそも尾鷲の自然、尾鷲の最大の売りである自然というものを、どう活用していくかということ、専門に扱うセクションというものは、実は尾鷲の中にはないということを皆さんが指摘されたんだろうというふうに思っています。総合計画が5年、10年というタイムスパンの中で尾鷲が、今もありますけどまず仮置きとしての「住みたい・住み続けたい ふるさとおわせの再生」というテーマで5年、10年行くのであれば、この市役所の縦割りというものを、どういうふうに市役所自身が総合計画の中で、横に繋いでいくか・連携をしていくかということが重要となります。ここでは広域連携とか、市と隣町であるとか、隣の市との広域連携という、行政の広域連携だけでも、これは民と民の広域連携だとか、民と公（おおやけ）との広域連携だとか、そう言った連携、あるいはコミュニティによる横の繋がり、そう言ったものが恐らく今後の尾鷲にはすごく大切になるんだぞということ、今日このワークショップの中で、3チーム同じになりましたが、横に繋がる可能性をそれぞれ別に議論をしながら、最終的にはそう言う結論になってきたことを僕はすごく楽しく思っていますし、それがこの尾鷲の良いところだろうというふうに思っています。そしてなおかつ今まだ足りないところを、市役所が主体となって総合計画は作りますが、尾鷲市民として「住みたい・住み続けたい」動きをこれからされる時に、市役所は何をやるべきなのか、そして住民の皆さんは将来世代のために何をやるべきなのか、その思いをこれから本格的に施策レベルで、市役所がやるだけではなくて、「市役所もやるけど我々もやるよ」というような総合計画を作るタイプになる、そう言うワークショップだったんじゃないかなというふうに思っています。どうも長時間ありがとうございました。お疲れ様でした。